

神戸市戦災関連資料の経緯と再整理

村上 しほり

1. はじめに

神戸市行財政局業務改革課では平和の尊さを次世代へ伝えるため、市民から寄贈を受けた神戸大空襲に関連する資料や戦争体験談、写真などを収集し、HP¹⁾に掲載している。集められた資料には、戦時中に使われた道具や書かれた手紙など、さまざまなものがある。

これらの戦災関連資料は、市立中央図書館1Fにおいて夏季に展示を実施しているほか、市埋蔵文化財センターの企画展等に貸出の機会も持っている。なお、将来的には2025(令和7)年度開設を予定している(仮称)神戸市歴史公文書館に引き継ぐことが決まっており、その準備を要する状況にある。

2022(令和4)年度は、神戸市の保管する戦災関連資料について、これまでの経緯を整理した上で、現状保管する複数の経緯や目録等に分かれた資料群の再整理に取り組んだ。資料群の経緯については2021(令和3)年度より市行財政局、中央図書館、神戸空襲を記録する会へのヒアリング調査を行った。

本稿は、神戸市戦災関連資料の収集・保管と目録の経緯と現状を整理し、2022(令和4)年度に再整理として実施した内容と見えた課題、展示企画による資料活用の取組みについて報告するものである。

2. 戦災関連資料の経緯

2-1 戦災関連資料の収集・保管と公開

1981(昭和56)年に神戸空襲を記録する会から市立中央図書館に戦災関連資料が寄託され、同館に戦災記念資料室が開室した。この展示は1995(平成7)年の阪神・淡路大震災による被災とそれに伴う閉室まで続いた。1997(平成9)年に開館した兵庫図書館に「戦災記念資料室」は移転し、その際、展示資料の変更はほとんど見られなかったという²⁾。

中央図書館に戦災記念資料室があったことから、図書館に対する資料寄贈も生じた。記録する会による資料寄託や、展示資料とは別に、図書館における寄贈資料の受入れも行われた。

さらに、これらの図書館と記録する会とは別の動きとして、行財政局(旧総務局)総務課の戦災関連資料の収集が1998(平成10)年に始まった。これは、現在に至るまで継続しており、神戸市HP「神戸 災害と戦災 資料館」を2005(平成17)年8月に開設し、資料や戦争体験談の公開に努めてきた。

近年のこれらに係る大きな動きとして、2017(平成29)年1月末に資料寄託の期間が満了することから、記録する会と市行財政局、中央図書館の三者による意向調整会議が行われ、資料の一元管理、夏季展示の継続、資料重複の整理が直近の課題として確認されたという。2016(平成28)年度末に中央図書館から市庁舎1号館に戦災関連資料を移動し、記録する会から中央図書館に寄託されていた多数の資料を神戸市の寄贈資料として受入れ

ることとなった。

翌2017（平成29）年度には記録する会が相楽園にて、中央図書館書庫から資料の量を減らして神戸市の倉庫に移動して収めるための整理作業に取り組んだ。この作業に際して市文書館等から新たに持ち込まれた資料の整理も、記録する会によって行われた。また、戦災関連資料に含まれた戦災関連図書については、中央図書館には兵庫県・神戸市に関する25件27冊を納め、その他の戦災記録関係の冊子や雑誌や重複書籍は記録する会が整理し、立命館大学平和ミュージアムへと受け入れを差配した。こうして神戸市が保管する現在の戦災関連資料群が成立した。

2-2 戦災関連資料の目録

上述した通り、集められた戦災関連資料の経緯には、①行財政局総務課、②中央図書館、③兵庫図書館展示、④神戸空襲を記録する会の四者が含まれ、移動や統合を経たことから、その区分が曖昧になっていた。特に、2021（令和3）年度末までに確認した目録の状況は、寄贈情報が概ねあるもの（①）、残されていないもの（②）に分かれたほか、寄託や寄贈の経緯が市に引継がれていないもの（③④）も多かった。よって、各資料の経緯や寄贈者への聞き取り情報から資料について調査研究を行うことはほぼ不可能と言える。

なお、③兵庫図書館展示については先行して、神戸空襲を記録する会・関係資料集編集グループが「神戸空襲を記録する会関係資料集3」として2021（令和3）年3月に発行した資料目録があった³⁾。ここには244点が採録されているが、撮影記録はまだ行われていなかった。

④神戸空襲を記録する会が1981（昭和56）年に発行した記録冊子「炎の記録 神戸大空

襲：神戸空襲を記録する会10年の歩み」においては、神戸空襲戦災資料目録に「遺品」として180点が記録されている⁴⁾。一方で、その情報と現存する市保管資料と展示資料の関係は明確に引き継がれてはいない。

神戸市HP「神戸の戦災 資料から見る戦災」には255点の資料写真と資料名称が掲載されている。しかし、撮影された時期が不明かつ①～③の資料が含まれるため、詳細目録を作成したうえで、あらためて区分を確認する必要があることがわかった。

以上のように、神戸市が現在保管する戦災関連資料に対しては、①～④の資料群として収集された経緯を整理し、遺されてきた資料に対する精確な目録を作成することが急務であった。既に出所原則や原秩序尊重の原則が損なわれていて、各資料の寄贈経緯が分からずとも、文字資料の記述内容や当時の発行物について検討し、資料の記入文字やその背景を注意深く観察して記録することから若干の考察を得ることはできる。まずは保管資料全点の目録採取と記録撮影が今後の活用や検討に資するとの考えから、2022（令和4）年度に資料の再整理を実施することとした。

3. 戦災関連資料の再整理

3-1 目録採取と資料写真の撮影

2022（令和4）年度には、4～7月に市行財政局にて保管されていた戦災関連資料の再整理作業を実施した。神戸市文書館から3人が1回4時間、10回余の調査を行い、現時点の資料目録採取と資料写真の撮影、箱番号の付与を完了した。

これまでは各資料が媒体毎に分けられて保管される傾向にあったために、目録①の寄贈情報を参考に、寄贈の経緯が判明する資料群については寄贈者毎に再整理を行った。また、

倉庫での保管に際してはダンボール箱やエアキャップが多用されていたため、テープや付箋等を除去し、資料保存に適した保存箱や包材に替える応急処置も行った。

市庁舎内での資料整理の実施に際しては、作業スペースの確保も課題となった。倉庫内には資料を広げられる余裕がなく、課内の協力を得て会議室等を予約して作業スペースとした。今後、資料収集・保存機能を担う想定で整備する(仮称)神戸市歴史公文書館においては、資料整理を目的とする空間を十分に設置する必要があることを改めて実感した。

引き続き、兵庫図書館戦災記念資料室に展示している戦災関連資料【写真1】についても、個別に採寸や撮影などの調査を行い、資料の目録作成の準備作業を行った。常時公開されている図書館内での資料整理作業であることを考慮し、資料室内で行う作業風景を利用者に公開することとし、児童の夏休み期間である7月22日、29日、8月3日、4日のそれぞれ午後に実施した。中央図書館・兵庫図書館の協力を得て、資料整理の内容を紹介するパネルを作成し、館内の数ヶ所に掲示した上で資料目録の採取と資料撮影を行った。【写真2】

兵庫図書館では関連企画として、戦争・平和についての図書、神戸の戦災に関する図書を集めた展示「本のカタリべたち」が開催された。



写真1 兵庫図書館の戦災関連資料調査

同展示は夏休み期間の7月24日から8月31日まで実施され、幅広い世代に向けた絵本や児童書から一般書までの紹介、貸し出しが行われた。また、8月3日には神戸空襲を記録する会に再整理実施を報告し、今後に向けた意見交換を行った。

本整理作業・調査の結果、1997(平成9)年の開室から資料の展示替えがなかったためか、実物資料のうち紙資料には顕著な劣化、写真パネルには顕著な褪色が認められた。また、モノ資料には背景を説明するキャプションが不足し、なぜそれが展示されているのかを十分に伝えられていない実物資料も散見された。今後は調査結果をもとに、特に劣化の著しい展示資料についての措置を判断し、展示から保存へ切り替えたり、レプリカを作成したり、修復を行ったりする等の処置をとる必要があるだろう。

3-2 総合目録の作成方針と寄贈者の特定

再整理完了後には、神戸市が保管・展示する戦災関連資料の総合目録を作成した。その結果、2022年(令和4)8月26日時点、市保管と兵庫図書館展示の戦災関連資料総数は735点であった⁵⁾。

目録に採取した項目は、箱番号・展示配置、寄贈者番号、資料番号、資料名称、形状等、記



写真2 兵庫図書館の戦災関連資料調査

入文字、従前の目録情報、概説の有無である。形状や記入文字を採取することで、資料名称からは窺い知ることのできない資料情報を目録で管理し、活用に繋げることを目指した。

寄贈者が判明している資料群については、3桁の寄贈者番号と寄贈者番号に対する枝番号として5桁の資料番号を付すこととした。寄贈者を単位とした目録整理を施したところ、①行財政局総務課(101~135)、②③中央図書館・兵庫図書館(001~013)、④神戸空襲を記録する会(200)に分けた寄贈者番号を付すことができた。寄贈者不明の資料群は、市役所保管(099)と展示(999)に分けて示した。

市保管資料の総数453点のうち309点(約68%)の寄贈者を特定し得た。内訳は、①行財政局総務課35件151点、②中央図書館13件119点、④記録する会1件39点であった。一方、寄贈者不明資料は144点に上り、そのうち「総」とメモが残る資料は11点、持ち主の名前が書かれているが資料目録に記録がない資料2群が見られた。

③兵庫図書館における展示資料については展示パネルと書籍32点は番号付与の対象外とした。その結果、総数310点のうち寄贈者や資料に氏名が記載された関係者62名136点を特定した。寄贈者・関係者がわからない資料は142点であった。

4. 戦災関連資料の活用—展示企画

神戸市では、戦災に関する資料や体験談、写真などを収集していることを発信し、市民の方々から寄贈いただいた戦災関連資料の実物や、神戸空襲に関するパネルを展示する機会として、2005(平成17)年度より毎年夏季に戦災関連資料展を実施している。

これまで、記録する会の指導・協力を受け、神戸空襲に関するパネルや寄贈を受けた戦争

関連資料の一部が展示されてきた。また、従来は資料収集と保管を担当する行財政局総務課(現・業務改革課)によって行われてきたが、2022(令和4)年度は、市文書館による戦災関連資料整理の成果を活かした展示を目指した。文書館が展示資料の選定と資料のキャプション執筆を行い、写真とパネルの掲示を総務課が行う連携とし、遺物や文字資料の背景や内容に言及する展示を企画した点に、これまでとの変化があった。

2022(令和4)年8月5日(金)から同月19日(金)まで神戸市立中央図書館1階ロビーにて開催した戦災関連資料展においては、愛国心の発揚、戦いへの祈りと銃後のつとめ、空襲、そして戦後へという戦時の進行と神戸大空襲を伝える戦災関連資料23点を選定し、出品した【表1】【写真3】。

2022(令和4)年度の展示企画においては、過去2年にわたって記録する会の協力のもと作成されたキャプションを活用しつつ、新規のキャプションを作成するため、資料の性質や重複に配慮した選定を心掛けた。再整理した総合目録をもとに資料の内容分類を行う分析を加え【表2】、市民に伝わる解説を作成することを目指した。

なお、戦災資料展示は2023(令和5)年2月にさんちかアドウィンドーにおいても実施した【写真4】。防空・空襲に係る実物資料6点(油脂焼夷弾、鉄かぶと、防毒面、防空頭巾、国民服、戦災風景画)、パネル2枚、罹災図1枚、写真パネル2枚を展示し、実物資料に対応する新規キャプション、神戸大空襲についての解説パネル2枚を新たに作成した。

現時点において概説を作成できた資料は35件で、作成した年度は2020(令和2)年度12点、2021(令和3)年度10点、2022(令和4)年度26点である。そのうち8点

は寄贈者不明資料であるが、寄贈者情報がわからなくても、資料の背景や資料そのものから読み取れる情報を解説することはできる。なお、今後の展示も戦災関連資料にはキャプションを付すこととする。

5. おわりに

2021（令和3）年度に戦災関連資料に係る経緯や現状を整理したことによって、2022（令和4）年度には、保管と展示の区分やこれまでの出自に関わらず資料全点に対する同一レベルでの目録採取を実現した。現状に即した詳細な総合目録を作成できたことは、資料公開や活用の水準を引き上げる一歩となったと言えよう。

実際に、本年度夏季に中央図書館、冬季にはさんちかアドウィンドーを会場にした企画展示で資料整理の成果を活用し、資料解説を付すことができた点は評価に値するだろう。次年度以降も、新規資料の整理や展示企画を継続し、資料調査を通じた知見を蓄積していくことが望ましい。

また、今後の課題として、兵庫図書館戦災記念資料室の常設展示のリニューアルや、（仮称）神戸市歴史公文書館の開館に向けた移転時を想定した包材転換や燻蒸の準備にも着手する。両者の展示内容の関係や中央図書館夏季展示との調整も視野に入れながら、引き続き検討を進めたい。

（神戸市公文書アドバイザー）

註

- 1) 神戸市 HP「神戸 災害と戦災 資料館」（2023年4月10日閲覧）
- 2) 神戸市立中央図書館、神戸空襲を記録する会へのヒアリングに依る。震災前の展示資料目録は残されていない。
- 3) 長志珠絵、小城智子、佐々木和子編「神戸空襲を記録する会関係資料集3 常設展示 空襲下の神戸：兵庫図書館戦災記念資料室から」神戸空襲を記録する会・関係資料集編集グループ、2021年
- 4) 神戸空襲を記録する会編「炎の記録 神戸大空襲：神戸空襲を記録する会10年の歩み」神戸空襲を記録する会、1981年
- 5) 2022年8月4日の展示設営中に、中央図書館でかつて展示されていた資料として見つかった竹担架1点を含む。

表1 2022年度戦災関連資料展(中央図書館)の展示資料一覧

名称	形状など
「歌詞入り絵葉書 (少国民愛国歌、みくにの子供)」	14.2×9 cm(ハガキ 2枚) 14.4×9.8 cm(封筒)
国防絵葉書購入啓発ビラ	19.3×13.6 cm 一紙
功四級金鷄勲章	全長 11.0 cm、記章幅 4.5 cm、厚さ 0.5 cm、直径 1.0 cmの飾り金具
軍用サック	箱:13×7.5×2 cm ベルト:21 cm 文字盤:4×3.5 cm
マッチ箱	5.5×3.5×2.0cm/2個
弁当箱(軍用)	21×6.8×8 cm
愛国婦人会・大日本国防婦人会たすき	① ひも:14 cm×2本 本体:107×8.2 cm(紫色) ② ひも:15 cm×2本 本体:109×7 cm(白色) ③ ひも:15 cm×2本 本体:105×7 cm(白色)
扇子(愛国行進曲・太平洋行進曲)	① 26×3×2 cm 箱:28.5×4.8×2cm ② 26×3×2 cm
慰問袋	35×21 cm
配給袋と戦時貯蓄債券	配給袋:20.0×15.5 cm ① 支那事変貯蓄債券(金拾五円):16.5×12.5 cm/1枚 ② 大東亜戦争戦時貯蓄債券(金拾五円):17.0×13.0 cm/2枚 ③ 大東亜戦争戦時貯蓄債券(金拾五円):16.5×12.5 cm/1枚 ④ 大東亜戦争戦時貯蓄債券(金七円五拾銭):17.0×13.0 cm/1枚
「大東亜戦争第一周年記念 軍用機 神戸市民号献納運動献金額並領収票」	25.5×18 cm
防毒マスク(防毒面)	直径 9.5 cm、高さ 4.0 cmの口部分と高さ約 18 cmのゴムマスク部分
千人針胴巻	15×84 cm
日の丸寄せ書き	64×80 cm
軍事郵便	14×9 cm/2枚
家庭用物資購入票 4点	① 家庭用物資購入集成通帳:18×12.5 cm/綴じ 4ページ ② 家庭用豆腐、油揚購入票:15×11.6 cm/一紙 2枚 ③ 家庭用米穀、味噌、醤油購入通帳:43×19 cm/一紙 ④ 家庭用牛肉、鶏卵購入通帳:25.7×18 cm/一紙(三つ折)
バケツを持つ(国防)婦人	高さ 11.3 cm、幅 8.3 cm
俘虜用郵便葉書(往復)	①往:14.5×9.3 cm ②復:14.5×11.3 cm
引揚証明書	26.5×18.5 cm/2枚
鉄かぶと	27.6×23.3×高さ 15.0 cm
防空頭巾	55×上 28 cm下 37 cm ひも:110×2.5 cm
油脂焼夷弾	全長(推)51.0 cm(約 1/3 欠損) 直径(六角形)8.0×7.0 cm 鑄鉄部分の高さ4cm

表2 戦災関連資料の内容分類

資料の保管・展示区分	資料の内容分類 ※()内は資料件数を示す。
兵庫図書館展示	子ども、家庭用品、装い、郵便、防空、書籍、印刷物、記念品、賞状、勲章、記録、手帳、証明書、貨幣類、焼損、道具、標識、武器、祈り、会、新聞記事、その他(パネル、写真、絵画、フィルムなど)
戦災関連資料展示 (R1~4 夏季の選定)	祈り(6)、防空(4)、家庭用品(4)、装い(3)、記念品(3)、印刷物(3)、武器(2)、貨幣類(2)、郵便(2)、道具(1)、標識(1)、勲章(1)、証明書(1)、手帳(1)
市保管・展示資料の全体	装い(123)、証明書(82)、貨幣類(81)、印刷物(49)、勲章(31)、賞状(30)、家庭用品(31)、祈り(29)、標識(29)、郵便(27)、武器(26)、道具(26)、防空(24)、子ども(16)、焼損(9)、手帳(9)、記念品(7)、記録(10)、書籍(50)、新聞記事(7)、その他(写真 18、パネル 7、絵画 5、その他 11)



写真3 2022年度 戦災関連資料展(中央図書館)



写真4 2022年度 戦災資料展示(さんちかアドウィンドー)